

川崎医科大学における POS 教育

川崎医科大学 検査診断学

上 田 智

川崎医科大学 公衆衛生学

中 島 行 正

川崎医科大学 総合臨床医学

津 田 司

川崎医療短期大学 医療秘書科

草 信 正 志

(昭和61年8月6日受付)

An Introduction to Medical Education by Means of the Problem-Oriented System (POS) at Kawasaki Medical School

Satoshi Ueda

Department of Clinical Pathology, Kawasaki Medical School

Yukimasa Nakashima

Department of Public Health, Kawasaki Medical School

Tsukasa Tsuda

Department of Primary Care Medicine, Kawasaki Medical School

Masashi Kusanobu

Department of Medical Secretarial Science, Kawasaki College
of Allied Health Professions

(Accepted on August 6, 1986)

L. L. Weed により提唱された **POS (problem-oriented system)** による卒前医学教育において、チーム医療実践のための POS 教育の実際を報告する。

この POS 教育に対して医学部学生 および 医療短大学生はチーム医療の実際を体験できたことを高く評価している。

今後 POS 教育をさらに発展させ、医療のシステム化を目標に教育の充実化をはかりたい。

Some observations regarding undergraduate education in medical schools employing the problem-oriented system (POS), which has been attributed to L. L. Weed, are reported. This trial of POS education was aimed at promoting mutual understanding between medical and co-medical students. The responses to POS education are summarized in a description of students' impressions submitted after lectures on POS. POS education concerning some facets of team care practice,

with which they were previously unacquainted, was favorably received by our students. POS education, which is now being provided to undergraduate students, will be extended to the medical staff as part of the realization of reorganization of the system of medical practice and the hospital.

Key Words ① POS

② POMR

③ Team care

はじめに

医師は日常の診療活動の中で、実に多くの問題に対処している。Weed 教授は“このように多くの問題に対処しなければならないことが、医師とその他の科学者の本質的な違いである”と述べている。したがって“医師は患者の問題点を系統的に理解することのできる診療システムを持たなければならない。”そして Weed 教授は、この診療システムの中核として“problem-oriented record”すなわち PO medical record (POMR)¹⁾を提唱し、症状、徴候問題を中心とする病歴記載法のシステムを紹介した。

POMR とは問診、診察所見および基本的検査所見から成る data base をもとにして problem list を作成し、その後の診療は problem に従い、患者の問題点 (problem) をどのように解決していったかを progress note に記載し、問題が解決されたならば退院、または外来での経過観察となる一連の診療行為の記載方法である。この方法で診療記録を作成すれば、誰がみても医療従事者の考えおよび医療行為が明

瞭にわかり、絶えず上級医師の監査をうけることにより、レベルの高い診療がなされるのである。

POMR がわが国に紹介されたのは 1972 年、日野原,²⁾ 柴田³⁾らによる。川崎医科大学附属病院では 1973 年開設時に各科共通の general chart を作り、その記載法を Weed の提唱する POMR によるとした。1978 年に POMR ガイドブック⁴⁾を作成し、記載方法の統一をはかった。1979 年以降医学部学生に POMR の講義および実習を実施すると共に、1986 年よりチーム医療を目標に病院全体のシステム化を目指して problem-oriented system (POS) 教育の実施を開始した。

教育方法

POS 教育日程

医学部 1 学年の医学概論で、problem-oriented の基本的考え方と data base の説明をする。3 学年の臨床入門の最初の時間に general chart の記載方法を解説し、与えられた資料 (data base) をもとに、実際に general chart

Table 2. The schedules for POS lectures and workshops at Kawasaki Medical School.

学年	授業科目	テ - マ	担当部門
1	医学概論	POS 入門	検査診断学
3	臨床入門	POS によるチャートの記載	同上
4	外来実習	POMR とチームケアの実際	総合診療部, 看護部, 栄養給食部, 病歴室, 病院管理学, 検査診断学
5	臨床実習	POS 合同カンファレンス	同上
6	臨床実習	POS の実際	総合診療部

Table 1. The schedules for POMR workshops.

	実 習 内 容
月	data base のとり方 problem list の作成
火	progress notes の作成 flow sheet の作成
水	discharge summary audit
	問診の仕方
木	チームケアの実際 (座談会)

に記入し problem list を作成させる。4 学年では充分時間をかけて general chart の記載の仕方の実習を行う。Table 1 の問診の仕方は、主訴を 25 項目 選び出し 学生 1 人が 1 項目の主訴について、どのように問診をしていくかを、3 分間でまとめて発表させることを行っている。この学年の実習は 1 グループ 25 名の学生単位で行われており、最終日は、チームケアの実際と題して、座談会を行っている。出席者は 25 名の学生と、医師、看護婦、栄養士、病歴室職員で、特定の症例について、医師から症例の説明があり、看護婦、栄養士とそれぞれ症例担当者から具体的に経過説明と問題点を討論し、さらに学生からの質問をうけ、医療チームメンバー間での討論を行う。

5 学年は臨床実習(検査診断学)の中で、POS 合同カンファレンスを実施している。

参加者は医学部学生(5 学年)、看護科、栄養科、医療秘書科学生とアドバイザーとして、副総婦長、婦長、栄養士、短大教員、病歴室室長、医師が参加している。一回に参加する学生総数は 25 名くらいである。医学部学生の司会で、資料として与えられた特定のチャートについて各科学生が自分の専門分野を分担して討論する。必要があればアドバイザーの意見を聞く。6 学年になると総合診療部での臨床実習が予定されており、ここで再び POS によるチャートの記載法について実習を行う。

以上の POS 教育を Table 2 にまとめた。

結 果

POS 教育に対する学生の反応

講義、実習、カンファレンスの最後に授業に対する学生の感想を書かせることにしており、学生の反応によって次回の授業の反省としている。この学生の感想文をもとにして、本学における POS 教育の結果を概説する。

第 3 学年臨床入門の最初の時間に POMR の講義と実習を行っているが、学生は大学に入ってから初めてカルテを書き、医学部に入学した実感を素直に表明している。しかし POS の理解までには至っていない。

4 学年の外来実習では座談会として医療チームのメンバーからチーム医療の実際の話の直接聞くことができ、医師以外の職種である看護婦、栄養士の診療における役割をはじめ知る機会を得た喜びを素直に認めている。さらに患者とのコミュニケーションを良くし、継続的治療を行うときに全人的医療の重要さと必要性を強く感じている。直接医療現場の生の声を聞き、患者をうまくマネジメントすることができなかった症例での医療スタッフの患者へのアプローチの困難さに医療の難しさや複雑さを認識したようである。

Table 3. Contents of the POS joint conference of medical and co-medical students.

目的	1. 医療チーム内相互理解 2. チーム医療の机上体験
方法	I. 参加者 学生 (医学部, 看護科, 栄養科, 医療秘書科) 職員 (副総婦長, 婦長, 栄養士, 短大教員, 病歴室室長, 医師) II. 討 論 1. 学生司会による討論 2. チェックリストにしたがってチャートの監査 3. 各科学生の分担 4. アドバイザーの助言 5. まとめ

5 学年の POS 合同カンファレンスでは、学生自らチーム医療と全人的医療を目指して、診療録の監査を行うわけで、医療チームを構成する各科学生が一堂に会して共通の話題で討論するはじめての体験に学生は緊張しているようである。カンファレンスが成功するか否かは、学生の予習いかんによると思われる。したがって指導教員のオリエンテーションが重要でカンファレンスの意義を十分に学生に納得させておく必要がある (Table 3)。

学生の反応は、当初の予想以上に好評である。医学部学生の反応は、お互いの立場が理解できたことを述べている。ことに医師は医学的情報に偏向しており、看護記録に患者の心理的社

会的情報がよくまとめられており、相互の情報交換の必要性を認めている。医師記録と看護記録の間での情報のくい違いがよく目につき、現実にはチーム医療が行われにくいことを感じているようである。医療秘書科学生からチャートの 0 号紙の説明をうけ、保険証に関すること、患者 ID のこと、ICD コードの説明をうけたことに満足しており、さらに栄養科学生から栄養調査表の説明があり、摂取エネルギー等の計算法を聞き、栄養に対して興味を示すようになったと述べており、また医療情報に具体性がないと栄養士としての対応ができない点の指摘があり、学生同士納得が得られる等のお互いの立場を理解しあっているようである。

短大生の反応は、学生自身医学的知識の不足を自覚しており、医師に対してチーム医療という立場から co-medical staff への積極的アプローチを強く望んでおり、チームリーダーの意識の改革を求めている。

考察および結び

POS は本来チーム医療を目標にした診療の具体的手法を明らかにしたものである。この点に関して多くの報告者^{6)~8)}もその必要性を述べているが、津田⁹⁾は付属問題方式によるプロブレムリスト作成を提唱しており、POS によるチーム医療を具現化する一つの方向を示した。

これは高く評価されるものと考えられる。

本学における POS 教育は年々新しい試みを行っているが、今回 POS 合同カンファレンスを実施し、各科学生から好評をうけており、全人的医療、チーム医療の理念を理解させる方法としては有効なものであると確信するに至った。

今後この方法を拡大して病院内で広く POS 教育が実施され、POS による診療が普及することを願っている。将来は診療録情報のコンピューター化、様式の標準化を目指しており、さらに医療情報の有効、適切な利用、そしてその結果として患者中心 (patient-oriented) の無駄のない診療が行われることを願うものである。

謝 辞

本学における POS 教育について常に暖かいご助言とご指導をいただきました川崎医大柴田進学長に心からお礼を申し上げます。また POS 合同カンファレンス実施にあたり献身のご協力をいただきました本学附属病院看護部、増本靖子 副総婦長、および栄養給食部、寺本房子、河原和枝両栄養士に深謝いたします。

その他、POS 教育実施にあたりご協力いただきました看護部、総合診療部、川崎医療短大、教材教具センター、病歴室の職員の方々に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 1) Weed, L. L.: Medical records, medical education, and patient care. Cleveland, Press of Case Western Reserve University. 1969
- 2) 日野原重明: POS 医療と医学教育の革新のための新しいシステム. 医学書院. 1973
- 3) 柴田 進: 川崎医科大学附属病院における POS 導入の経験. 看護教育 22: 734-740, 1981
- 4) 上田 智: POMR ガイドブック. 川崎医科大学附属病院 1978
- 5) 中島行正, 草信正志, 上田 智, 武田好子, 山神英子: POMR の実際. 川崎医療短期大学紀要 1: 115-129, 1981
- 6) 日野原重明: POS とその理解. 看護教育 22: 734-740, 1981
- 7) 岡安大仁: POS 実践の今後の問題. 看護教育 25: 853-854, 1984
- 8) 上田 智: 大学における POS 教育. 看護教育 25: 827-833, 1984
- 9) 津田 司: チーム医療における問題リスト共通化の試み. 看護教育 27: 75-78, 1986